

# 春の小川通信

だれもが安心して暮らせる地域に。  
障がい者の地域での暮らしを支援しています。

2020. 9

NO.35



特定非営利活動法人 春の小川

〒399-0706 長野県塩尻市広丘原新田 93-1  
電話/FAX 0263-51-6393 E-Mail sarasara@dia.janis.or.jp  
発行責任者/理事長 小沼芳博

## ～意思決定を支援するということ～



理事長 小沼 芳博

今回の「ちゅーりっぷ」設立に関わる経験で、特に印象に残ったことのひとつがグループホーム入居者の意思決定の能力でした。それは、すでに他の作業所に通っている入居者の方々に「ちゅーりっぷ」への通所の可否について確認をする場面で起きました。もちろん支援側として本人には必ず「思い」「考え」があり、自分で決めることができると理解はしていましたが、私自身も、頭のどこかに不安な気持ちがあったことは否めません。

でも実際は予想以上に明確に答えてくれました。相談支援専門員の方が、その日の気分だといけないので、手段を変えて何回も確認しても同じ答えだったとのこと。それも我々の事前予想とは異なる判断もあったと聞いたとき、本人の思いに寄り添った支援の難しさをつくづく感じました。さらにもし間違った先入観があった場合は、方向性すら間違えることもある為、事の重大性を再認識しました。

今回の状況を見るにつけ、本人が意思決定をするため、日頃から多様な日常経験があり、わかりやすい情報提供がありさえすれば、きちんと意思決定できることを意味しています。ただ第三者にその「思い」を伝える際、健常者とは異なる方法で発信しているため、我々がそのサインを見落とさないよう、五感はもちろんその時の環境や体調までも意思伝達手段だと認識し、先入観なしで対応することが求められています。

今回の「ちゅーりっぷ」設立に関わる経験は、改めて障がいのある方を「意思を持つ一人の知性ある存在」として受け止め、代行決定ではない支援とはどのようなことかを考えさせられる良い機会だったと思います。



## ありがとうございました

西牧 千恵子

春の小川の活動に創立時より関わって参りましたが、5月末、相談支援専門員を最後に退きました。障がい者の個性を尊重しつつ、障がいについてさまざまな角度から向き合い、学ばせていただきました。長い間多くのおみなさんに支えられ、働くことができました。誠にありがとうございました。

障がい者のおみなさんの声に、笑顔に、背を押されつつ前へと歩めたと実感しています。また、ご家族のご理解、ご協力と、安心して障がい者が地域で過ごせるよう共に支援を進めてきました世話人さん・スタッフのおみなさんにいろいろ補っていただき、深く御礼申し上げます。長い間、心に積まれていくものを感じる貴重な年月でした。感謝。

